

研究大学強化促進事業に関する意見書の取りまとめ

A:優れている

B:良好である

C:不十分である

1. RU事業(平成30年度)の活動について

評価内容	評価	評価者氏名	コメント
(1)計画に沿った活動状況であるかについて	A	評価者：A	多角的にアプローチしつつ、研究の活性化をはかっており、全体として高く評価したい。
	A	評価者：B	高等研究院、未来医療開発コンソーシアムの創設の新設など順調であると考ええる。医学系領域で世界Top100入りを前倒しで達成している。
	A	評価者：C	採択時の戦略がアクション（・・・の活動をする）で記述されていたのに対し、中間評価を踏まえてアウトカムベースの戦略構想をたて、それに見合った年度達成目標（と活動の方向性）に取り組むようになり、全体像がわかりやすくなってきたように感じる。
	A	評価者：D	強み、弱みを分析し、それぞれをさらに伸ばし、改善する様にプログラムを構築し、うまく進められている。
	A	評価者：E	URA 機構を革新的に進めている。
	A	評価者：F	当初設定した取組み内容を先取りして実行し、戦略目標の実現に向け加速化している。
(2)事業活動の進捗状況について(全般的評価)	A	評価者：A	若手からシニアの人材までを適切にリクルートして研究を活性化させていることがうかがわれる。
	A	評価者：B	英文総論文数、国際共著論文割合、Nature Index 論文数、産学共著論文割合、順調に伸びている。未来医療開発コンソーシアムの創設など、めざましい進捗といえよう。
	A	評価者：C	<ul style="list-style-type: none"> AMED や科研費申請支援数の増加、総論文数や国際共著論文数、産学共著論文数などのアウトプットの増加、産学連携活動実績（受入額等）のランキング向上、さらには重要なアウトカム指標である「世界大学トップ 100 ランキング入り」の前倒し達成など、結果を出している。 今後ランキングを維持するための強みの強化、弱みの改善など柔軟なフィードバック体制構築を期待する。
	A	評価者：D	(1)と同じ
	A	評価者：E	指摘された問題点が分析され対策が講じられている。

	A	評価者：F	6つの取組みについてそれぞれ意欲的に取り組んでいて、定量的評価指標が向上している。
(3)評価(外部評価・自己評価)に基づいた改善がなされているかについて	B	評価者：A	歯学部の研究の活性化が今後の課題である。外部の理事を招いたとのことであるが、人事を含めて活性化を期待したい。
	A	評価者：B	2017年度時の外部評価に対して十分に検討いただいていると考える。
	B	評価者：C	・国際共著論文(増加)、AMED(の増額)、国際広報の強化など、目に見える成果をだしている評価項目も多い。 ・「歯系の改善」については、担当理事新設など努力がみられるが、歯学分野の世界大学ランキングが悪化しており、とくに(産学界の)評判向上への手立てがのぞまれる。
	A	評価者：D	外部評価の意見を誠実(真摯)にとらえて、対応して頂いている。
	A	評価者：E	概ね改善されている。
	B	評価者：F	外部評価時の指標事項に対応した取り組みがなされている。

2. URAについて

評価	評価者氏名	コメント
A	評価者：A	URAがよく機能していると思われる。URAの活動の周知が今後も必要である。
A	評価者：B	全国の医療系URAのロールモデルとしての役割を十分に果たしていると考えられる。
A	評価者：C	・各ブランチがひと通り手当・充実され、それぞれのブランチで成果をあげつつある。 ・また、URAのキャリアアップイメージを描き実行することで、他の医療系大学のモデルとなるとと思われる。
A	評価者：D	URA活動はすばらしいと感じる。 また trainee から昇任して行く system もうまく機能して欲しい。
A	評価者：E	学内においてURAの着実な配置が推進されている。
B	評価者：F	URAを組織改革し、より高い成果が創出される体制になった。 学内の教職員へのさらなる周知が望まれる。

3. URAの活動について

評価内容	評価	評価者氏名	コメント
(1)大型研究展開 ブランチ(研究費 獲得ブランチ)の 活動・実績につ いて	A	評価者：A	出口を目指した研究の活性化は重要な取りくみである。
	A	評価者：B	AMED 研究費（件数、総額）科研費の採択率、女性研究者支援、いずれも順調に伸びている。
	A	評価者：C	・産学連携活動各種実績に関する順位の向上、文科省 OI 機構の採択獲得は成果と思う。 ・高等研究院等と連携しての JR 講座誘致についてもっと成果を上げるとともに、大きくアピールしていただけるとさらに良い。
	A	評価者：D	科研費に関して、歯学系（中区分 57）の採択率を上げる様に、かと言って申請件数が（極端に）少なくなる様にして欲しい。
	A	評価者：E	（空白）
	B	評価者：F	AMED、科研費などの件数は着実に伸びており活動成果が実を結んでいる。大型研究費の獲得が望まれる。
(2)研究強化ブ ランチの活動・実績 について	A	評価者：A	よく機能していると思われるが、とくに歯学部 の活性化に努めて欲しい。
	A	評価者：B	研究 IR や研究プロジェクト企画立案支援など をはじめとして、発明ニーズ発掘、基盤研究、 応用研究の充実化に貢献しているものと評価 出来る。
	A	評価者：C	・AMED 研究費申請支援は採択数、研究費額 ともよく成果を上げたといえる。 ・科研費申請支援も成果はでてい 思うが、さらに採択率が上がるよう がんばってほしい。
	A	評価者：D	強みのある領域を伸ばし、「医科歯科ここ にあり!!」というのがはっきり分かる 様に。（特に歯学系でも）
	A	評価者：E	（空白）
	A	評価者：F	2つのコンソーシアムの設置、若手研究 者育成のためのガイアラボ、高等研 究院など医科歯科大学の強み領域 のさらなる強化、若手研究者育成 など意欲的に取り組んでいる。
(3)先進医療展 開ブランチの活動 ・実績について	A	評価者：A	今後重要性がますます高くなると思 われる。
	A	評価者：B	このブランチが優れたミッションを遂 行していることを実感している。
	A	評価者：C	・新規医師主導治験（2 治験）の開 始、観察研究/介入研究コースへの 支援と臨床研究論文の増加を評価 する。
	A	評価者：D	（空白）

	A	評価者：E	(空白)
	B	評価者：F	今後の活動が期待される。

4. 広報活動について

評価	評価者氏名	コメント
A	評価者：A	前回ほどの目立ったものではないが、着実に広報を続けている。
A	評価者：B	研究広報誌「Research Activities 2019」を発刊し、発表論文を医歯学研究者 2 万人に配布しているなどめざましい。 また、英文プレスリリースの件数が右肩上がりに上昇している。
B	評価者：C	<ul style="list-style-type: none"> ・英文プレスリリースの増加、取材件数の増加は高く評価。 ・世界大学ランキングの低スコア要因が産業界向け評判であることから、産業界向けの広報アプローチを工夫するとよい。 ・Nature Index 論文などは、自学の変化だけでなく、他学との比較も考えるべき。(ベンチマークを考える必要あり。今大学規模で正規化すると日本の大学内で 33 位くらいではないか?)
A	評価者：D	Press release とそれに続く問い合わせの増加から、御努力の様子は理解しています。 海外、特にアジアにおける医科歯科大の presence は高いのですが、欧米においても高まる様に。
B	評価者：E	国内外の認知度向上のために、より積極的で効果的な広報活動が必要である。
A	評価者：F	医学分野におけるランキング 100 以内達成は広報活動の成果である。 さらなる知名度の向上が望まれる。

5. 研究者情報・IRについて

評価	評価者氏名	コメント
A	評価者：A	データがしっかり把握されている。活発に活用してほしい。
A	評価者：B	次世代研究者育成システムの構築など優れた活動をしている。
B	評価者：C	<ul style="list-style-type: none"> ・総合イノベーション機構設置に向けた取組、URA や med Unet の活躍はわかる。 ・総合情報機構については、研究者評価、リサーチマップづくり、業績調査など個別にはそこそこやっているが、「継続的な大学ランキング改善」に向けた具体的分析や対策提言をしっかりと進めてほしい。

A	評価者：D	おそらくしっかりと分析し、評価されてるから、新たな展開に向けて新しいプログラムが生まれてくるんだと思います。
A	評価者：E	(空白)
B	評価者：F	今後の成果を期待したい。

6. その他、お気づきの点

評価者氏名	コメント
評価者：A	<p>高等研究院のシステムは興味深い。是非とも成功させて欲しい。外からの注目度も高い。</p> <p>女性研究者の育成については外から見てみると活発に行っているように見える。他の大学や研究機関への転出が多いことは大学としては好ましいことではないか。</p>
評価者：B	<p>全般的に非常にめざましい成果が上っていると考えられる。</p>
評価者：C	<p>○これまでアクションベースで「いろいろやっている」という感じだったが、「具体的アウトプットベースで成果がでてきている」という印象にかわったのが大きく、積極的に評価したい。</p> <p>○次は「いかに好ランキングを維持するための分析・対応ができているか」「事業終了後でも、こうした取組が継続できるのか」という点を重点的に説明してもらえるとありがたい。</p> <p>○個別事項としては</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TMDU にとって歯学系のステイタスの維持向上は大きな意義があるように感じるので、ここのランキング向上には力を注ぐべき ・雇用者の評判（産業界の認知）を上げるための IR+広報をもっと考えた方がよい。 ・ロジックチャートのどこが有効に機能しどこが弱いかを考え、柔軟に要素の修正・変更・追加を考えると、さらなる研究力強化、ランキングの維持向上につながると思う。IR のさらなる活躍に期待。（フィードバックシステムを組みこんで、持続可能性を増す）
評価者：D	<p>① 歯学系の改善のために何をどの様に目指して行くのかについて Grand design が作られるのを楽しみに待っています。そしてそれに続く具体的な取り組み。</p> <p>② 高等研究院が学内に広く良い影響を及ぼす事を願っています。</p>
評価者：E	<p>1 臨床研究の推進 観察研究のみならず、介入研究の推進することにより、予防医学の確立を目指す。</p> <p>2 女性研究者の育成 女性研究者支援のあり方を考え、上位職の割合を増加させる。</p>
評価者：F	<p>特に欧米の先端研究機関との連携が望まれる。</p>